

令和7年度群馬県食環境づくり実態調査の結果について

群馬県では、栄養課題である「食塩摂取量の過剰摂取」等の改善を目指し、産学官が連携して健康的な食環境づくりを進める「ぐんま元気（GENKI）な食環境づくりプロジェクト」を実施しています。

この度、群馬県内における「食環境づくり」の現状と課題を把握し、今後の施策に反映させるため、食品事業者等に対して「群馬県食環境づくり実態調査」を初めて実施しました。

1 調査概要

- 調査対象 群馬県内に本社または事業所を有する事業者 600 社
(食料品関連製造業、卸売業、小売業)
- 調査期間 令和7年11月7日～21日
- 調査方法 郵送及びインターネット調査
- 有効回答数 179 件 (有効回答率 30.4%)
- 調査事項 事業者における減塩及び栄養バランスに配慮した取組の実施状況、課題

2 主な調査結果の概要

- 減塩商品を製造・販売・提供している事業者は約 35%であった。
- 減塩商品を製造するうえで工夫していることは、「素材の味を活かしている」が約 54%で、次いで、「だしのうまみを活用する等、味付けを工夫している」「減塩商品（調味料など）を使用している」の順であった。
- 減塩商品の製造・販売について課題と感じていることは、「特に課題に感じていることはない」が約 44%であり、次いで、「おいしさを維持することが難しい」、「販売価格が高くなってしまう」の順であった。
- 減塩の取組を始めたきっかけは、「消費者意識の高まり」が約 15%であった。
- 今後の減塩商品の製造・販売の進め方として、「取組を積極的に進めたい」「取組を維持・継続したい」を合わせた「取組を進めたい」が約 26%、「検討中・検討予定」は約 16%であった。一方、「今後も実施を予定していない」が約 50%であった。

3 調査結果

詳細は県ホームページからご覧ください。

※右記の二次元コードからご覧いただけます。



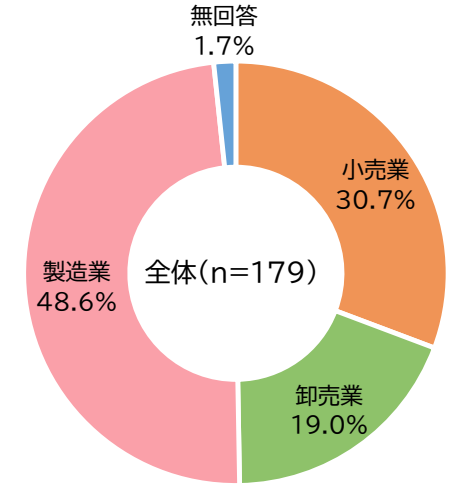
<ぐんま元気（GENKI）な食環境づくりプロジェクト>

群馬県民の健康寿命延伸のため、群馬県の栄養課題である「食塩摂取量の減少」等を目指し、企業等と連携して、誰もが自然に健康になれる食環境づくりを推進するものです。

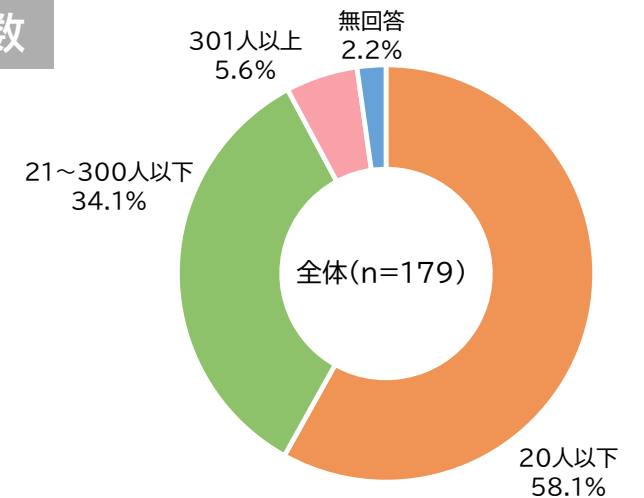
群馬県食環境づくり実態調査結果 概要①

調査目的	県民が自然と健康になれる食環境づくりを推進するにあたり、県内企業の実態や課題を把握し、食環境づくりを推進するための基礎資料を得ることを目的として実施した。
調査対象	県内に住所を有する事業者 600社 (食料品の製造業、卸売業、小売業)
調査期間	令和7年11月7日～11月21日
回答数	179社
調査項目・設問数	調査項目は、減塩の取組の実施状況、栄養バランスに配慮した取組の実施状況、プロジェクト参画等の17問。
回答企業属性	回答企業の業種は製造業が48.6%と最も多く、従業員規模は20人以下の企業が58.1%と最多であった(右図のとおり)。

業種



従業員数



群馬県食環境づくり実態調査結果 概要②

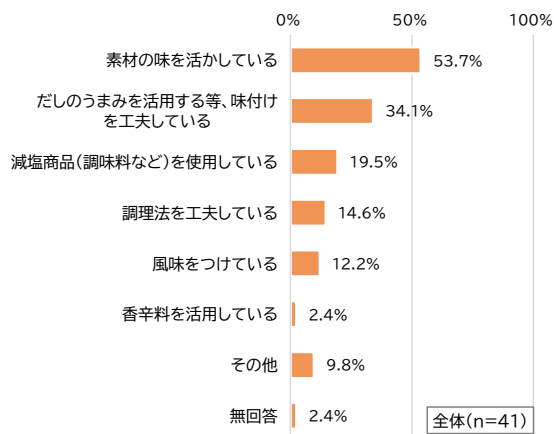
減塩の取組

- 通常商品、あるいは過去の商品と比較して減塩または塩分控えめな商品を製造・販売・提供している事業者は約3割。
- 減塩商品を製造するうえでの工夫は、「素材の味を活かしている」の最も割合が高く、半数以上の事業者で実施。
- 課題では「おいしさを維持することが難しい」の割合が最も高く、約3割。
- 取組を始めたきっかけは「消費者意識の高まり」の割合が最も高く、次いで「消費者からの要望」、「取引先企業からの要望や提案」であった。

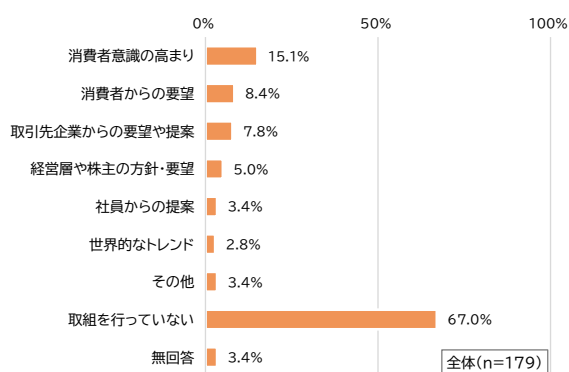
栄養バランスに配慮した取組

- 栄養バランスに配慮した取組を行っている事業者は約2割。
- 課題では「販売価格が高くなる」の割合が最も高く約2割。
- 取組を始めたきっかけは「消費者意識の高まり」の割合が最も高く、次いで「取引先企業からの要望や提案」、「消費者からの要望」であった。

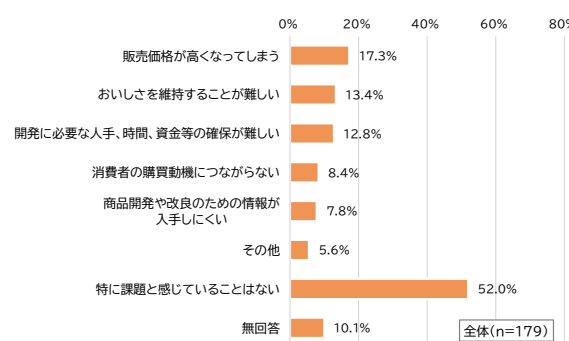
製造の工夫



取組のきっかけ



取組の課題



取組のきっかけ

